



国際戦略局技術政策課
研究推進室長

大野 誠司 OHNO Seiji

平成 15年 4月 総務省採用
平成 15年 8月 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成 17年 8月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課
平成 18年 8月 内閣官房情報通信技術 (IT) 担当室主査
平成 20年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課
番号企画室番号企画係長
平成 21年 7月 内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐
併任 内閣府本府構造改革特区担当室
平成 23年 7月 外務省在インド日本国大使館一等書記官
平成 26年 7月 総務省情報通信国際戦略局国際協力課国際協力調査官
平成 28年 7月 前橋市政策部参事
平成 30年 7月 同 政策部情報政策担当部長
令和 元年 7月 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
併任 総合通信基盤局電波部移動通信課
新世代移動通信システム推進室課長補佐
令和 3年 8月 前橋市副市長
令和 6年 7月 総務省国際戦略局技術政策課革新的情報通信技術開発推進室長
令和 7年 7月 同 国際戦略局技術政策課研究推進室長
併任 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官
(重要課題担当) 付企画官

未来を創る技術で 社会を変える力を

国民生活に、日本経済に、 どう寄与できるか

上記は、私の“働き方・マネジメント宣言”の書き出しです。これは、私が総務省に入省した動機とも通じています。

私の学生時代は、移動通信はポケベル→PHS→ケータイ→写メ・iモード、固定通信はテレホーダイでのダイヤルアップ・ISDN→ADSL→光と、ICTサービスが数年の間にめまぐるしく進化、急速に普及し、日常生活にも大きな変化が生じた時期でした。これを学生生活の中で体験したことで、個別の技術やサービスそのものの開発ではなく、一歩引いた立場から“社会にどう適用できるか、国民生活がどう変わり、日本経済にどう寄与できるか”に取り組みたいと総務省に入省しました。

入省して約20年の間、他省庁への出向、地方自治体(前橋市)での勤務も経験してきましたが、ICT分野は先端技術の研究開発から地域の現場における課題解決での活用まで非常に幅が広く、視点を変えながらも、通底する想いとして変わらず業務に取り組んできました。

AI、量子だけでなく、先端技術を着実に

“働き方・マネジメント宣言”には、室員に持ってほしい意識として「広い視野を持って、将来有望な技術の育成・社会実装に取り組む」と続けています。

現在の研究推進室のメインビックは、信頼できるAI、量子通信ですが、ここ数年で社会的にも注目を集めるこれらの分野も、総務省が情報通信研究機構(NICT)や関係企業とともに20年近く取り組んで来たものです。AIや量子以外にも、脳情報通信、光通信、リモートセンシング、最先端ICTデバイスなど、様々な先端技術の研究開発に取り組んでいます。

世の中を変える技術は、地道に着実に創り積み上げることが必要ですが、科学とビジネスの近接化が進み、また、量子×脳情報やAI×量子×半導体など複数分野の掛け合わせが不可欠な時代になっているからこそ、“社会実装への意識”を強く持ちながら、先端技術の開発に取り組んでいきたいと思えます。

新幹線通勤な国家公務員

私は現在、前橋勤務をきっかけに群馬に定住し、

高崎駅から新幹線通勤をしています。毎日大変では?と良く聞かれますが、通勤時間のほとんど(60分弱)を座って過ごせるため、むしろ快適で有意義な時間となっています(この原稿も車内で下書き)。テレワークも活用し、遠距離通勤の支障は全くありません。また、キャンプやスノースポーツなど、群馬ならではの楽しみが身近にあり、週末も充実しています。こんな働き方をしている職員もいると参考になれば幸いです。

私にとって群馬定住のきっかけとなった地方自治体勤務をはじめ、技術系職員も多様な経験ができることも総務省の魅力です。新しい知識・技術・環境に出会えることを「楽しい」と思える人には活躍できる場があふれています。ぜひ一度、業務説明会やインターンにきてみませんか。



キャンプやスノースポーツなど群馬らしい週末を楽しんでいます

地域の未来を考える

近年、情報通信技術が社会の隅々にまで影響を及ぼし、インターネットやスマートフォンが当たり前のように私たちの生活の中心にあります。技術革新も相まって、SF映画などで描かれていた未来の生活が具体化しつつありますが、少子高齢化や人手不足に伴ってDXニーズが高まる中、どのように地域社会に貢献できるか考えたことはありますか?

地域に密着した通信インフラ

現在私が担当する主な業務として、(聞き馴染みがないかもしれませんが)ローカル5Gや地域BWAといった無線システムの許認可があります。ローカル5Gは、例えば、4K等の高精細映像を用いた遠隔支援、自動運転向けの遠隔監視やロボットの遠隔制御などに活用されており、地域課題を解決するための鍵となる技術です。また、地域BWAは、地域の公共の福祉の増進に寄与することを目的として、地域の事業者が地域ニーズにきめ細かく対応できるシステムとして活用されており、こちらも重要な役割を果たしています。

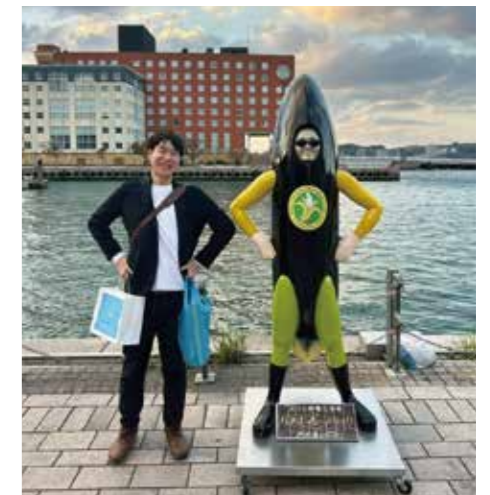
これら技術をより使いやすくするためにはどのような制度設計であるべきか、また、技術がもたらす可能性を探りそれをどのように現実社会に組み込むことができるのかを考えながら地域の未来を考えていくことは非常に挑戦的であり、やりがいを感じています。

きっかけは総務省

皆さんの中には、専門が情報通信でないけど大丈夫かな、政策や法律を扱うのは難しそう等々と不安に思う方もいるかもしれません(私自身、学生時代の専門が宇宙物理だったため土地勘がなく、そう思いながら就職活動していました)。でも安心してください。大変なこともありましたが意外となんとかなるものです。総務省をきっかけにこれまで知ることがなかった世界に触れることができ、今振り返ってみて、総務省を選んだ自分の選択は間違いではなかったと感じています。

技術系行政官に求められるのは、技術の本質を見抜き、それを言葉で説明し、そして社会を動かしていくことだと思います。最先端の技術を追いかけるだけでなく、それを日本中の全ての人の日常に届けたい。総務省ではそんな思いを実現することがで

きます。是非総務省の門戸を叩いてみてください。



休日に妻との旅行先で

動かすのは技術、 変えるのはあなた。

総合通信基盤局
電波部移動通信課課長補佐

中山 貴博 NAKAYAMA Takahiro

平成 30年 4月 総務省採用
総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課
併任 安全・信頼性対策室
令和 2年 8月 外務省総合外交政策局安全保障政策課経済安全保障政策室
令和 4年 4月 同 総合外交政策局安全保障政策課経済安全保障政策室主査
令和 4年 7月 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター主査
令和 6年 7月 総務省大臣官房企画課課長補佐
令和 7年 8月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐